


分野	44	防災・安全	<b>通番 106</b>
施策	441	都市の防災機能の向上	
<b>5年後の目標</b>		市民の生命・財産が地震や浸水被害などから守られるよう、自然との調和を保った適切な防災対策が図られている。	

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目	決算額(円)	担当課
	<b>雨水浸水対策事業</b>		会計 款 項 目	-	下水道施設課
			公営企業会計		
事業の概要					
<p>京都府いろは呑龍南幹線一部供用開始(馬ノ池川排水区)に向け、連携して事業を推進します。神足ポンプ場更新を含めた犬川排水区および風呂川排水区の浸水対策に雨水対策検討会議を中心に全庁的に取り組みます。</p>					


令和元年度の取組							
D (取組)	指標	10年降雨確率に対する雨水整備率(令和7年度まで整備予定面積576ha)				単位	%
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
		目標	67.7	67.7	67.7	69.8	69.8
	65.9(平成26年度)	実績	65.9	67.7	67.7	67.7	
<p>・いろは呑龍トンネル南幹線の供用開始に向け、京都府や関係者との協議調整を継続して実施しながら、接続施設の設計を進めており、一部供用開始に向けて工事に着手しました。          ・年2回の雨水対策検討会議で、災害への対応について、全庁的な議論の展開と情報の共有等を行いました。          ・今後の神足ポンプ場の改修に向けて事業認可変更を行い、神足雨水ポンプ貯留施設の基本設計にも着手しました。</p>					<p>いろは呑龍トンネル南幹線接続点施工状況(京都府)</p> 		

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和元年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	評価指標の傾向・トレンド		対応頁
		雨水整備率	近年頻発する局地的集中豪雨に対応するため、降雨強度10年確率での雨水整備事業を進めています。	
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<p>・京都府いろは呑龍トンネル南幹線事業において、府並びに市の工事着手が遅れており、雨水整備率は増えませんでした。令和2年度に一部の接続工事が完成することで目標値に達する見込みです。          ・雨水対策会議において、全庁的に議論、情報共有を行うことができました。          ・犬川第二、第三、第四排水区を事業認可区域に追加したことで、神足ポンプ場の改修に向けて必要な補助金を確保し、事業を進める事が可能となりました。</p>
	課題等	<p>・京都府いろは呑龍トンネル南幹線事業において、分水施設を設置する接続地点の決定を、京都府と連携しながら早期に行う必要があります。</p>		

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
1: 計画通りに進めることが適当	<p>・いろは呑龍トンネル南幹線の令和3年度の一部供用開始及び令和5年度の全面供用開始に向けて、関係機関との協議を進めながら詳細設計及び接続工事を進めます。          ・年2回の雨水対策検討会議で、災害対応方法についての議論や情報の共有等を行い、災害に対して迅速な対応を図れる体制を整えます。          ・犬川排水区内の神足ポンプ場改修に向けて詳細設計及び改修工事を行います。          ・野添公園貯留施設の代替案の検討を含む風呂川排水区の整備方針の決定を行います。</p>

分野	44	防災・安全	<b>通番 107</b>
施策	441	都市の防災機能の向上	
<b>5年後の目標</b>		市民の生命・財産が地震や浸水被害などから守られるよう、自然との調和を保った適切な防災対策が図られている。	

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目	決算額(円)	担当課
	<b>水循環再生プラン(雨水)事業</b>		会計   款   項   目	—	下水道施設課
			公営企業会計		
事業の概要					
水循環再生プランに基づき、公共施設への雨水貯留浸透施設の整備を行います。環境問題への意識向上と水資源の有効活用による日常生活の利便性向上のため、雨水貯留タンクの購入経費の助成を行います。					


令和元年度の取組							
D (取組)	指標	小中学校での雨水貯留浸透施設設置数(累計)				単位	施設
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	0(平成26年度)	目標	1	2	3	水循環再生プランの見直しを含めた事後評価と検討	水循環再生プランの見直しを含めた事後評価と検討
		実績	1	2	3	現況調査の実施	
	指標	雨水貯留タンク設置数(累計)				単位	基
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	349(平成26年度)	目標	450	500	550	600	650
		実績	408	426	451	472	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>雨水貯留浸透施設については、事後評価のため、雨水貯留浸透施設設置箇所の現況調査を行いました。</li> <li>雨水貯留施設設置助成については、令和元年度より仮受付手続きを廃止し、手続きの簡略化を行いました。また、市ツイッターやフェイスブックなどSNSを活用したり、自治会に回覧用資料としてポスターを配布するなどして、広報の拡充を行いました。</li> </ul>						令和元年度設置された250ℓの雨水タンク
							

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和元年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド		対応員
		—	—	—	
C (評価)	達成度合	C:目標の一部を達成できなかった	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>雨水貯留浸透施設については、事後評価のため、長岡第十小学校、長岡第四中学校の雨水貯留浸透施設設置箇所の雨水貯留施設、浸透柵を目視確認し、検討材料の収集を行いました。</li> <li>雨水貯留施設設置助成については、令和元年度は21件の助成を行い、補助対象経費は736,000円になりました。令和元年度に設置された雨水タンクの総容量は3,962リットルとなりました。平成19年度の助成開始から市内に設置された雨水タンクの総容量は92,778リットルとなり、降雨時には一定の雨水流出抑制効果が見込めます。</li> </ul>	
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>雨水貯留浸透施設については、水循環再生プラン策定時に実施された浸透実験により効果があるとされた箇所の施設整備は一定完了したため、施設整備継続の是非を含めた水循環再生プランの見直しが必要です。</li> <li>雨水貯留施設設置助成については、助成開始から10年以上が経過し、市内の設置希望者にはある程度いきわたったことなどから、助成件数が伸び悩んでいます。</li> </ul>			

目標達成に向けての次年度以降の対応	
A (行動)	対応策等
2:進め方の改善の検討が必要	<ul style="list-style-type: none"> <li>雨水貯留浸透施設については、令和元年度及び令和2年度の現況確認、利用状況の調査に基づき、事後評価及び検討を行います。</li> <li>雨水貯留施設設置助成については、今後もポスターやSNSを活用した助成制度の広報の方法を再検討するとともに、節水だけでなく防災の観点から広報を行うなど、内容についても検討していきます。</li> </ul>

分野	44	防災・安全	<b>通番 108</b>
施策	441	都市の防災機能の向上	
<b>5年後の目標</b>		市民の生命・財産が地震や浸水被害などから守られるよう、自然との調和を保った適切な防災対策が図られている。	

概要					
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目	決算額(円)	担当課
	<b>今里雨水貯留幹線関連の 維持管理事業</b>		会計 款 項 目	—	下水道施設課
			公営企業会計		
事業の概要					
今里雨水貯留幹線施設は、浸水対策上重要な施設であることから継続して適正な維持管理更新を行っていく必要があります。ライフサイクルコストの最小化の観点からも長寿命化計画に基づき、施設更新を行います。					


令和元年度の取組							
D (取組)	指標	今里雨水ポンプ場長寿命化計画進捗				単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	長寿命化計画の策 定(平成27年度)	目標	長寿命化の詳細設 計	長寿命化の工事施 工	長寿命化の工事施 工	長寿命化の工事施 工	長寿命化改築工事 完了
		実績	長寿命化の詳細設 計	長寿命化の工事施 工	長寿命化の工事施 工	長寿命化の工事施 工	
<ul style="list-style-type: none"> <li>長寿命化計画に基づき、4カ年にわたり長寿命化工事を計画的に実施しています。</li> <li>令和元年度は、計画通り排水ポンプのオーバーホールを実施しました。</li> </ul>					オーバーホールが完了した排水ポンプ 		

施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和元年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁	
	達成度合	A: 目標を達成又は上 回って達成 できた(目 標の100% 以上)	達成状 況	<ul style="list-style-type: none"> <li>長寿命化計画どおりに、排水ポンプのオーバーホールを完了しました。</li> <li>整備完了時の性能確認試運転の結果は良好であり、今里雨水ポンプ場を長寿命化できました。</li> </ul>	—
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題は特になく、計画通りに進めることができました。</li> </ul>			

目標達成に向けての次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	1: 計画通りに進めることが適当 <ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度は自動除塵機の部品交換を行い、長寿命化工事を完了します。</li> <li>工事は降雨の多い時期を避け、秋以降に実施する予定です。</li> <li>長寿命化計画を完遂することで、今里ポンプ場の信頼性が向上し、近隣住民の安心・安全に寄与することが期待されます。</li> <li>長寿命化計画終了後は、ストックマネジメント計画により計画的かつ効率的に施設の維持管理を行っていきます。</li> </ul>

分野	44	防災・安全	<b>通番 109</b>
施策	441	都市の防災機能の向上	
<b>5年後の目標</b>		市民の生命・財産が地震や浸水被害などから守られるよう、自然との調和を保った適切な防災対策が図られている。	

概要							
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目		決算額(円)	担当課	
	<b>防災情報伝達手段の整備事業</b>		会計	款	項	8,958,236	防災・安全推進室
			一般	2	1		
事業の概要							
災害時に気象情報や防災情報、避難情報等を緊急に市民等に伝達するため、「防災情報お知らせメール」の登録を促進します。また、停電時等に効果的なデジタル防災行政無線を導入するとともに、Jアラート受信機をより情報が速やかに伝達できる新型機種への更新を行います。さらに、コミュニティFMを活用した情報伝達の取り組みを進めて、災害情報伝達手段の充実・強化を図ります。							

令和元年度の取組							
D (取組)	指標	防災情報お知らせメール登録者数			単位	人	
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	1,600 (平成26年度)	目標	3,500	5,000	6,000	7,000	8,000
		実績	2,779	3,918	4,852	5,454	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自主防災組織の訓練援助及び、地域での研修会や出前講座等において、積極的に「防災情報お知らせメール」の周知と登録を推進しました。また、広報誌やHPにおいても防災関連記事とともにメールへの登録案内を掲載しました。</li> <li>・FMおとくにへの災害時割込み放送機器を設置しました。</li> </ul>					<b>防災情報お知らせメール</b> 		


施策の「5年後の目標」に対する評価					
令和元年度の達成状況					
C (評価)	評価指標	関連する評価指標		評価指標の傾向・トレンド	対応頁
			—		—
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目標数7,000人には至りませんでした。地域での研修会や広報誌、HPで「防災情報お知らせメール」の周知をしたことで、登録者を前年度より602名増やすことができました。</li> <li>・FMおとくにへの災害時割込み放送機器は実災害での活用に向け、毎週金曜日に割込み放送の訓練を行っています。</li> </ul>	
	課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域での研修会や広報誌、HP等で周知を行っているものの、約8万人の人口に対し、防災情報お知らせメールの登録者の割合は約7%です。防災情報の発信・入手方法は多様化しており、長岡京市公式LINE等のSNSやYahoo!防災アプリ、コミュニティFM等の防災情報の入手方法も広く周知していく必要があります。</li> </ul>			

目標達成に向けての次年度以降の対応	
方向性	対応策等
A (行動)	1: 計画通りに進めることが適当 <ul style="list-style-type: none"> <li>・引き続き、広報誌やHP、出前ミーティング、自治会や福祉施設に登録の案内ちらしを配布するなど、携帯電話やスマートフォン操作が苦手な高齢者を中心に「防災情報お知らせメール」への登録の周知を拡充し、登録者の増加を図ります。</li> <li>・災害時に備え、防災用サイレンの点検と吹鳴訓練を実施します。</li> <li>・災害時には、FMおとくにの災害時割込み放送を活用し、市民に情報を伝達します。</li> <li>・多様な情報伝達手段で情報発信をします。</li> </ul>



分野	44	防災・安全	<b>通番 110</b>
施策	441	都市の防災機能の向上	
<b>5年後の目標</b>		市民の生命・財産が地震や浸水被害などから守られるよう、自然との調和を保った適切な防災対策が図られている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	<b>避難所機能及び 防災備蓄物資等の充実</b>		会計	款	項	目	6,556,982	防災・安全 推進室
			一般	2	1	10		
事業の概要								
東日本大震災の教訓に基づいた備蓄計画に従い、備蓄用食料の拡充、物資供給協定に基づく、流通備蓄の確保に努めます。 避難所機能充実に向けて、避難者数500人以上収容の公共施設へのマンホールトイレの整備、テント、発電機等の避難所運営資機材の充実を図ります。また、避難所における情報入手の手段として、避難所設置が予定される施設内に、テレビやラジオ、インターネット通信機器の整備を行います。								


令和元年度の取組								
D (取組)	指標	防災食料備蓄数					単位	人分
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2	
	35,898 (平成26年度)	目標	45,600	53,200	60,800	68,400	76,000	
		実績	43,562	54,794	65,066	73,642		
	指標	避難者数500人以上収容の公共施設(21施設)へのマンホールトイレ整備割合					単位	—
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2	
	16/21 (平成26年度)	目標	17/21	18/21	19/21	20/21	21/21	
		実績	17/21	18/21	18/21	18/21		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>「長岡京市災害用備蓄物資整備計画」(平成28年度からの5ヶ年計画)に基づき、避難者用備蓄食料及び帰宅困難者用備蓄食料、要支援者用備蓄食料を整備しました。</li> <li>「長岡京市避難所運営資機材整備計画」(平成29年度からの3ヶ年計画)に基づき要配慮者が避難所で過ごすために必要とされる資機材を整備しました。</li> <li>お湯の調達が不要で常温保存ができるため、利便性が高く、発災直後の混乱時にも対応できる液体ミルクの備蓄を行いました。</li> <li>「長岡京市避難所運営資機材整備計画」(令和2年度からの3ヶ年計画)を作成しました。</li> </ul>						液体ミルク	
								

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和元年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応員
		—	—	—
	達成度合	B: 目標をほぼ達成できた(目標の80%~100%程度)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年度から5ヶ年間で備蓄目標値38,000食から76,000食とする「長岡京市災害用備蓄物資整備計画」に基づき物資の整備を進めました。また、要配慮者が避難所で過ごすために必要とされる資機材を「長岡京市避難所運営資機材整備計画」に基づき整備しました。</li> <li>マンホールトイレについては、残りの施設ごとに整備計画の見直しを行っているため、令和元年度中の整備は見送ることとなりました。</li> </ul>
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>「長岡京市災害用備蓄物資整備計画」が令和2年度で完了するため、次年度からの計画の策定が必要です。</li> <li>備蓄物資等の保管場所の確保と、活用状況の管理が必要です。</li> </ul>			

目標達成に向けての次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> <tr> <td>1: 計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き「長岡京市避難所運営資機材整備計画(令和2年度からの3ヶ年計画)」に基づき資機材の整備を行います。</li> <li>次年度からの「長岡京市災害用備蓄物資整備計画」を公的備蓄物資に係るニーズの変化等を踏まえ作成します。</li> <li>備蓄物資の管理を徹底し、期限間近の物資は防災訓練やフードバンク等で活用します。</li> <li>備蓄物資の備蓄状況及び資器材の配備状況により保管場所や倉庫の増設を検討します。</li> <li>マンホールトイレについては、計画の見直し完了した施設から整備を行っていきます。</li> </ul> </td> </tr> </table>	方向性	対応策等	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き「長岡京市避難所運営資機材整備計画(令和2年度からの3ヶ年計画)」に基づき資機材の整備を行います。</li> <li>次年度からの「長岡京市災害用備蓄物資整備計画」を公的備蓄物資に係るニーズの変化等を踏まえ作成します。</li> <li>備蓄物資の管理を徹底し、期限間近の物資は防災訓練やフードバンク等で活用します。</li> <li>備蓄物資の備蓄状況及び資器材の配備状況により保管場所や倉庫の増設を検討します。</li> <li>マンホールトイレについては、計画の見直し完了した施設から整備を行っていきます。</li> </ul>
方向性	対応策等				
1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き「長岡京市避難所運営資機材整備計画(令和2年度からの3ヶ年計画)」に基づき資機材の整備を行います。</li> <li>次年度からの「長岡京市災害用備蓄物資整備計画」を公的備蓄物資に係るニーズの変化等を踏まえ作成します。</li> <li>備蓄物資の管理を徹底し、期限間近の物資は防災訓練やフードバンク等で活用します。</li> <li>備蓄物資の備蓄状況及び資器材の配備状況により保管場所や倉庫の増設を検討します。</li> <li>マンホールトイレについては、計画の見直し完了した施設から整備を行っていきます。</li> </ul>				

分野	44	防災・安全	<b>通番 111</b>
施策	441	都市の防災機能の向上	
<b>5年後の目標</b>		市民の生命・財産が地震や浸水被害などから守られるよう、自然との調和を保った適切な防災対策が図られている。	

概要								
P (概要)	実施計画名称(予算事業名称)		予算科目			決算額(円)	担当課	
	<b>住宅・建築物耐震改修等事業</b>		会計	款	項	目	31,219,720	住宅営繕課
			一般	2	1	10		
事業の概要								
市民の生命と財産を守るため、地震による被害を最小限にとどめることを目指し、耐震化に関する啓発を行うとともに、耐震診断・耐震改修に係る費用負担の軽減を行います。 また、エコリフォーム事業とのタイアップを行うことで、更なる負担軽減を図ります。								

令和元年度の取組							
D (取組)	指標	旧耐震木造住宅に対する耐震診断士派遣事業の実施件数(累計)				単位	件
	現 状 (計画策定時)	年度	28	29	30	1	2
	287(平成26年度)	目標	325	350	375	400	425
		実績	333	354	434	464	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 広報・ホームページ等の活用やポスティング、またイベントでのブースの設置等により情報を発信し、耐震改修の重要性と耐震性の向上へ向けた啓発を行いました。</li> <li>・ 耐震改修補助及びエコリフォーム補助の相談者に対し、相互に制度の案内を行う等、制度を活用し耐震化及びエコ化を促進しました。</li> <li>・ 耐震診断事業については、木造住宅耐震診断士の派遣を実施しました。</li> <li>・ 耐震改修補助については、本格改修補助(補助限度額1,000千円)と簡易改修補助(補助限度額400千円又は300千円)及び耐震シェルター設置補助(補助限度額300千円、改正なし)を実施しました。</li> <li>・ 昨年度に引き続き、ブロック塀等撤去に関する補助金(補助限度額150千円)を実施しました。</li> </ul>					啓発パンフレット等		
							

施策の「5年後の目標」に対する評価				
令和元年度の達成状況				
C (評価)	評価指標	関連する評価指標	評価指標の傾向・トレンド	対応頁
		—	—	—
	達成度合	A: 目標を達成又は上回って達成できた(目標の100%以上)	達成状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 耐震改修補助については、本格改修補助(補助限度額1,000千円)は21件21,000千円、簡易改修補助(補助限度額400千円)は15件6,000千円の補助を実施し、住宅の耐震化を推進しました。</li> <li>・ 簡易改修補助(補助限度額300千円)と耐震シェルター設置補助については申請はありませんでした。</li> <li>・ ブロック塀等撤去補助(補助限度額150千円)については、18件2,697千円の補助を実施し、地震による倒壊等の危険性の解消を推進しました。</li> <li>・ 耐震診断事業については、木造住宅耐震診断士の派遣を30件実施しました。</li> </ul>
課題等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 前年に発生した災害からの復旧が進む中、工事を希望する世帯が増えた事等により、耐震改修補助についても年度当初から申請が急増しました。そのため一時的に国の予算措置が不足し、費用の負担から改修時期を先延ばしにするなどにより、耐震化が進まない課題が発生しました。</li> </ul>			

目標達成に向けての次年度以降の対応					
A (行動)	<table border="1"> <tr> <th>方向性</th> <th>対応策等</th> </tr> <tr> <td>1: 計画通りに進めることが適当</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き、国や府と連携した耐震改修補助制度を運用し、申請者の費用負担を軽減すると共に、耐震化の入り口である耐震診断の実施を広く推し進め、市民の耐震化へ向けた意識付けを行い、今後の更なる耐震化の促進を図ります。</li> <li>・ 国や府と連携し予算の確保に努め、申請者の費用負担の軽減を行う事により、更なる耐震化の促進を図ります。</li> </ul> </td> </tr> </table>	方向性	対応策等	1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き、国や府と連携した耐震改修補助制度を運用し、申請者の費用負担を軽減すると共に、耐震化の入り口である耐震診断の実施を広く推し進め、市民の耐震化へ向けた意識付けを行い、今後の更なる耐震化の促進を図ります。</li> <li>・ 国や府と連携し予算の確保に努め、申請者の費用負担の軽減を行う事により、更なる耐震化の促進を図ります。</li> </ul>
方向性	対応策等				
1: 計画通りに進めることが適当	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 引き続き、国や府と連携した耐震改修補助制度を運用し、申請者の費用負担を軽減すると共に、耐震化の入り口である耐震診断の実施を広く推し進め、市民の耐震化へ向けた意識付けを行い、今後の更なる耐震化の促進を図ります。</li> <li>・ 国や府と連携し予算の確保に努め、申請者の費用負担の軽減を行う事により、更なる耐震化の促進を図ります。</li> </ul>				